

防寒対策

いちばん簡単なのは寒冷紗や不織布、割繊維不織布などで覆う方法です。低温性のコマツナ、シュンギクなど露地よりはるかに生長がよく、冬でも良質のものが得られます。フィルムをトンネル状に覆えば、日中の温度上昇は格段によいので、さらに高い保温力が得られます。

早春まきのコカブ、ニンジンなど、春植えの果菜類などの生育をたいへん促進でき早どりに有効です。日中の温度を上げすぎないように、穴をあけたり裾を上げたりして換気することが大切です。

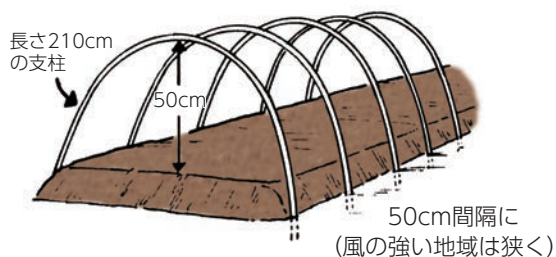
べたがけ

不織布や割繊維不織布などを、直接葉の上に覆う。

ビニールトンネルの作り方①

①支柱を立てる

中央の高さも50cmくらい
(作るものによっては低くてもよい)



②畝の両側に杭を打ち、斜めに支柱を差す



③支柱と杭をテープで結び固定する

支柱を固定しないと、風でゆれ、ビニールが破れる。



このように結べば支柱は動かず、除去するときも支柱を抜けば、ヒモは結び目ができない。

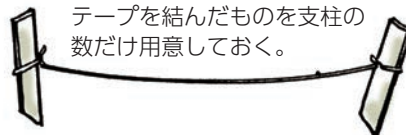
④ビニールをピンと張る

暖かいときに、ビニールを杭に結び、思っきり引っ張ってピンと張り、一方を反対側の杭に結ぶ。



⑤支柱の間をテープで押さえる

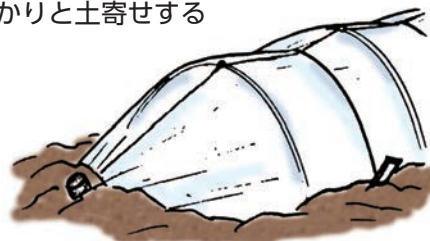
長さ30cmの割竹に、事前にテープを結んだものを支柱の数だけ用意しておく。



風に飛ばされないようすばやく両側からビニールを押さえる。



⑥ビニールのすそを風が吹きこまぬようしっかりと土寄せする



ビニールトンネルの作り方②

①竹やプラスチックなどの支柱材を、溝に等間隔で差し込む。畝をまたぐようにして支柱を曲げ、支柱のもう片方の端を溝に差す。

②ビニールの端は土中に埋め込み、固定する。

③トンネル用の被覆フィルムを、支柱の上にかぶせる。

④ビニールの両わきも土をかぶせて固定する。

タマネギ

日本で栽培されるようになったのは意外に遅く、明治時代になってからだと言われています。一般的にタマネギと呼んでいる部分は根ではなく、葉の根元が養分を蓄え丸くなったもので、鱗茎（りんけい）と言われるものです。



作型

植え傷みさせると枯れやすいので、丁寧に植える。秋まきが最適で早まきすると、とう立ちしやすい。酸性土壌に弱いので、石灰を必ず施用する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき貯蔵						■	■				△		もみじ、さつき、ターボ レッドオニオン、ニューセブン

△：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

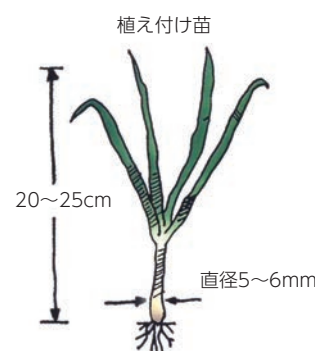
土づくり a当たり

堆肥 400kg
セルカ（有機石灰） 10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合

元肥 a当たり

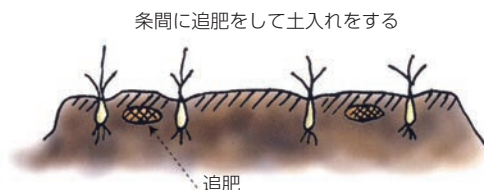
発酵鶏糞 30kg
畝立時施用

- 4条植え：畝幅135cm 条間24cm 株間12cm
- 育苗されている場合は苗取り前日に十分灌水して、できるだけ根を付けて苗を取る。
- 苗取りすれば、すぐ植え付けるようにする。
- 深植えにならないように注意!



追肥

- 1月下旬～2月上旬：追肥し、中耕を行う。
- 2月下旬～3月中旬：追肥し、中耕を行う。
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5～7kg/a)
- 病気を防ぐため、3月下旬以降は追肥しない。



防除

病害虫名	薬 剤 防 除
アブラムシ類 アザミウマ類	マラソン乳剤(2,000～3,000倍) 7日前まで6回以内
ハモグリバエ類	マラソン乳剤(1,000倍) 7日前まで6回以内
べと病 灰色かび病	プロポーズ顆粒水和剤(1,000倍) 7日前まで3回以内
灰色かび病	ベンレート水和剤(2,000倍) 前日まで6回以内

収穫

- 全体の50～80%が倒伏したら行う。
- 3～5日晴天が続いた後に抜き取り、半日から1日畝上で天日干しを行い、風通しの良い日陰につるして貯蔵する。

